

人と人をつなぐ・・・

FURE

サテライト新聞



FUREイメージキャラめばえちゃん

2016年4月発行 第2号

双葉郡の話題をお届けしています

【発行】福島大学うつくしまふくしま未来支援センター (FURE) 相双地域支援サテライト 住所：楡葉町北田中満296-1 電話：0240(23)6675

広野町にオフィスビル完成

駅東側に新たな復興拠点

広野町のJR広野駅東側に整備が進められていたオフィスビル「広野みらいオフィス」が完成し、4月から供用が始まった。広野町が進める、駅東側を核とした新しいまちづくりの拠点として、活性化へ向けた大きな役割が期待される。

ビルは鉄骨造り地上6階建てで、免震構造のため、東日本大震災と同規模の大きな地震に対しても安全や安心を確保しつつ、建物の機能も維持できる。延べ床面積は約3500平方メートル。非常用発電機や太陽光発電パネルを完備し、停電の時には

共用部分の照明、コンセントへ72時間にわたって電力を供給できる。また、省エネ型空調や発光ダイオード(LED)照明を採用、平常時にも省エネを図っている。総事業費は約14億円で、福島復興再生加速化交付金※を受けて進められた。

入居が決まっているのは、富岡労働基準監督署やハローワーク富岡のほか、警備、建設、給食、除染、不動産関連など17事業所。1階には

はコンビニエンスストアの出店も予定されている。広野町はビルの名前を公募し、寄せられた94点から選んだ「みらい」には、町をはじめ浜通りの復興推進、活気ある街をつくる拠点にするという思いが込められた。建設は、広野町の復興整備事業「広野駅東側開発整備事業 第1期」の一環。同ビルを含め、現在進めている第1期工事は「産業ゾーン」の整備で、事業所、医療施設、ホテルなども誘致する方針。第2期工事では、「住宅ゾーン」として集合住宅などの整備を計画している。

※II避難住民の早期帰還を促進し、地域の再生を加速化させることを目的に国が創出した制度



広野駅東側に完成した広野みらいオフィス



手になじむ温かな器並ぶ

川内村・蕎麦酒房天山

キダサトコさんの作陶展



作陶したキダサトコさん

川内村の蕎麦酒房天山で4月7日から25日まで、キダサトコ陶展が行われた。築約100年の古民家を改装した、心地よい空間の店内には、普段使いにぴったりな、シンプルながらも温かさを感じさせる器など約120点を展示。来店者らは器を手に取り、出会を楽しんでいた。キダさんはいわき市在住。これまでに同市内などのギャラリーで作品展を開催したほか、益子陶器市などに参加するなど、作陶活動に励んでいる。川内村での開催は初めて。自分が使いたい、欲しいものを作る」というキダさん。大好きなスープを食べるのに使いたいの発想から生まれた器や、コーヒードリッパーなどの作品の中には、特に好んでつくる「片口」も並んだ。

片口は、縁の一部につく注ぎ口がアクセントになり、酒などの液体を注ぐのに用いられることが多いが、こういう使い方をしなればならない、と言うのはなくて、こんなも



古民家を改装した店内で行われた作品展

また、備前焼で知られる岡山県備前市の土を使い、「焼き締め」と呼ばれる原始的な技法で作った器も登場。釉薬（ゆうやく）を掛けず、4日間高温の薪窯（まきがま）で焼き上げたもので、自然が織り成して生まれた、素朴ながらも力強さを感じさせる色合いと、土を連想させる器肌

が、手にしたとき安心感を与える。キダさんのホームページはhttp://kidasatoko.jimdod.com 蕎麦酒房天山の営業時間は午前11時半から午後2時まで、毎週水曜日が定休日。問い合わせは電話0240(38)3426まで。

富岡町復興へのつどい2016

多彩なアトラクションに 町民の笑顔の花が咲く

温めるとともに、ステージ上で繰り広げられたアトラクションを楽しみ、思い思いのひと時を過ごした。

全町避難が続く中、ふるさとへの思いを持つ町民同士が集まる憩いの場を設け、帰還へ向けた意識を高めるのが目的。毎年、桜の開花の時期に行っている。郡山市やいわき市など、それぞれの避難先からバスなどで集まり、会場内は活気にあふれた。

富岡町が主催する「富岡町の復興への集い2016」が4月9日、広野町中央体育館で開かれた。避難先から集まった町民約600人が、思い出話に花を咲かせながら旧交を



楽しいステージに大笑いの町民たち



トークショーに登場した巨東関、宮本、渡辺さん（右から）

育ちのミュージシャン渡辺俊美さんのトークショーが行われた。いわき市在住のケーシー高峰さんは、白衣姿とホワイトボードのお決まりのスタイルでお色気医事漫談を披露し、次々と爆笑を誘った。歌手の普天間かおりさんのコンサートもあった。

町民の芸能ステージ



爆笑を誘ったケーシーさん

では、富岡ひよっこ連気晴らし舞道愛好会、チーム富岡さくらYOSAKOIの2団体が登場、大きな拍手が送られた。よさこい踊りでは、町のマスコットキャラクターとみっぴーも加、ほほえましい様子に、さらに盛り上がった。

このほか、町民たち



よさこい踊りでは町のマスコットキャラのとみっぴーも参加

編集後記

手の内を明かすようですが、この紙面を作っているのは、ソメイヨシノが満開を迎えたころ。郡内では実に美しい景色に次々と出会い、双葉郡の風土の素晴らしさに改めて感銘を受けます▼富岡町の夜ノ森の桜のトンネルを通りました。美しさに感動し、風に吹かれて散る様子に寂しさを覚えました▼桜は言うまでもなく、古来から多くの日本人が愛で、歌にもたくさん詠まれています。古今和歌集

にある 桜色に 衣は深く 染めて着む 花の散りなむ のちの形見に 紀有朋」を思い出しました。桜が散った後の形見に、衣を桜色に染めて着よう、という意味。惜しむ歌を思い浮かべるぐらいい、桜の花に無常を、ある種の悲しさといつた感情がわき起こるのを感じました。なま、満開の桜の花を手放して喜んでいたのか、思い出せませんか、思い出せませんか、今号からはA3サイズの発行、いかがでしたか。新聞には、通算の号数を表す「紙齢七れい」という表現が

あります。順調に齢を重ねるよう、引き続き努力致しますので、よろしくお願い致します。
* 水俣視察記②」は休載し、第3号に掲載いたします。ご了承ください。



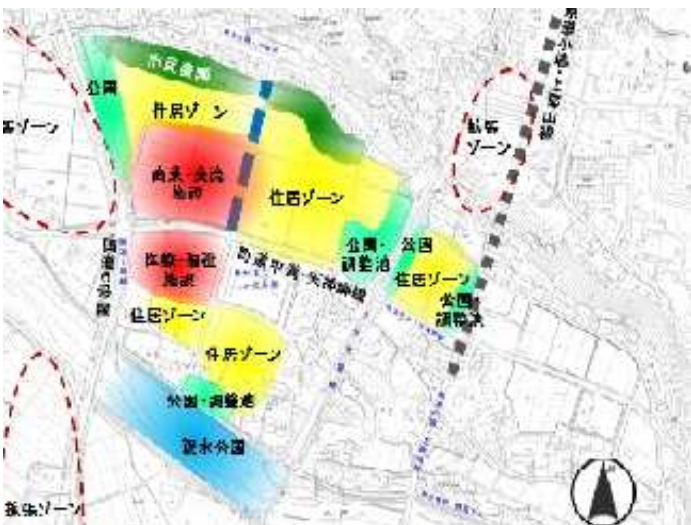
夜ノ森の桜のトンネル

楡葉町 土地利用を知る

②コンパクトタウンについて

ちづくりに向けて定められた土地利用計画の中でも、プロジェクトの中心となるのが「コンパクトタウン」。舞台となるのは北田地区で、今年2月には災害公営住宅の建設が始まり、さらにふたば復興診療所もオープン

し、大きな一歩を踏み出した。コンパクトタウンとは、身近な場所に店や医療施設、公園などがあり、車を使うことなく、日常生活の多くの用事を済ますことができるまちを意味する。整備するのは約23軒で、東京ドームで考えると約6個分の広さ。約12軒の住居ゾーンと、約3軒の商業・交流施設のほかに、公園、医療福祉施設などから構成される。商業施設は28年度末の開業を目指して



コンパクトタウンの計画図（楡葉町提供）